

保健師の実践能力の発展過程と現任教育のあり方

米増直美 松下光子 坪内美奈 森仁実 大井靖子 宮島ひとみ 北山三津子
岩村龍子 大川眞智子 (大学) 居波由紀子 堀幸子 (岐阜県保健医療課)

I. はじめに

本研究では、岐阜県における保健師現任教育の方法を開発することを目指している。県では、保健師の研修を企画・実施し、そこに本学の公衆衛生看護領域担当教員も協力している。研修の方法は単年度ごとに修正を加えながら工夫をしてきているが、長期的な展望に立って現任教育のあり方を検討していくことができていない。また大学には学士課程修了時に身につける保健師としての実践能力はどのような内容であるかを明らかにすることが求められている。そのためには、卒業後にどのような能力がどのように高まっていくのかを明らかにし、そのための基盤となる能力が何かをあわせて検討する必要があるので、現任教育の担当課と大学との共同で取りくんだ。

昨年度の新任保健師研修では、新任保健師に対し、就職して4ヶ月時点と11ヶ月の時点での実践経験の現状についてアンケート調査を行った。今年度は、この調査結果から、保健師新任期における到達目標を検討し、それを元に現任教育の在り方を検討する。

II. 方法

1. 新任保健師の業務経験の実態調査

1) 方法

平成19年度新任保健師研修会時にアンケート調査を実施した。研修会は前期研修と後期研修があり、新任保健師は、前期と後期の両方に参加することになっている。前期は19年7月、後期は20年2月に開催された。それぞれ、保健師として実践をしてから4ヶ月時点、11ヶ月時点である。

2) 調査項目

保健師の実践能力を捉える側面を検討し、表1に示す実践能力の項目を調査項目とした。

大分類として【行政における看護実践】【看護過程の展開】【自らの専門性を高める】に分けた。

【行政における看護実践】の実践能力としては、「所属組織と活動の成り立ちの理解」「施策化」「地域のヘルスケア体制整備」「健康危機管理」をあげた。【看護過程の展開】では、「地区活動の展開」「保健福祉事業の展開」「個人・家族への援助」「他機関・他職種との連携・協働」「住民との協働」「所属機関の保健師との連携・協働」をあ

げた。【自らの専門性を高める】では、「実践の中で研鑽する能力」をあげた。

さらに各実践能力の内容を中項目で示し、中項目ごとに体験したことが有る場合は○をつけてもらい、実践経験有りとは回答した実践能力の項目ごとに、具体的な内容を記述してもらうこととした。

3) 分析方法

実践経験の有無については、単純集計した。実践能力の項目ごとの具体的な記述内容を元に、4ヵ月時点、11ヶ月時点での保健師としての実践能力の到達目標を検討した。

2. 共同の実際

本研究は保健師研修会を共同で実施しながら進めている。保健師研修は現地看護職(保健医療課)が責任を持ち実施しているため、教員は研修の方法について一緒に検討した。アンケート調査の集計・分析と到達目標の検討は教員が行い、その結果をもとに看護職と話し合いを行った。

3. 倫理的配慮

アンケート調査の実施にあたり、口頭と文書で調査目的・方法、匿名性と守秘の保証、参加や中途拒否の権利などを説明し同意を得た。また、本研究は岐阜県立看護大学研究倫理審査部会の承認を得た。

III. 結果

19年度新任保健師研修会に参加した保健師全員から本研究への協力を得ることができた。前期研修会参加者は32名、後期研修会参加者は30名であった。

1. 新任保健師の実践経験の状況

前期(4ヵ月時点)に、半数以上の新任保健師が実践経験有りとは回答した項目は、【看護過程の展開】の中の「個人・家族への援助」の中項目「信頼関係形成」「個人・家族のアセスメント」「記録を作成する」であった。後期(11ヵ月時点)では、「個人・家族への援助」の中項目すべてと、「他機関・他職種との連携・協働」の中項目「対象者の個別ニーズを充足するための住民との連携・協働」「チームの一員としての行動」であった。実践能力の項目「所属機関の保健師との連携・協働」の中の中項目「同じ部署にいる保健師チームの一員として行動する」は前期・後期とも半数以上の

新任保健師が実践経験有りと回答していた。

2. 到達目標の検討

実践経験の具体的記述内容を元に、実践能力の項目ごとに、到達目標を検討した。その結果、表2から4のように整理できた。表2に【行政における看護実践】、表3に【看護過程の展開】、表4に【自らの専門性を高める】についての到達目標を示す。

3. 共同研究者間で到達目標について討議

検討した到達目標について、さらに共同研究者間で討議した。その結果、以下のような意見があった。

- ・より具体的な到達目標を示していく必要がある。
- ・これらの目標に到達するために、新任保健師がどのような業務経験をするよいか、具体的に検討する必要がある。
- ・保健所と市町村では業務内容が異なるので、到達目標および到達するための方法の検討において違いを考慮していく必要がある。
- ・新任保健師の指導保健師にこの到達目標を認識してもらい、到達する方法について一緒に検討していくことが必要である。

4. 岐阜県の看護への貢献とその成果

1) 看護実践の方法として改善できたこと

新任期の到達目標を検討し、今後さらに洗練していく必要性はあるが、おおよその指標として示すことができた。新任保健師は、これらの到達目標を指標に、自分自身を振り返ることができ、実践能力向上につながると考える。また、これらの到達目標に向けて、新任保健師研修の目的・目標もより具体的に設定できると考える。

2) 現地側看護職の受け止めや認識

① 研修会に活かすことができる

到達目標が検討でき、次年度の研修を企画する際に活用できる。保健師の資質向上のために何ができる必要があるのか、何を目標に研修していけば良いのかを明らかに言語化してもらうことで、保健師研修を実践していける。また、評価指標としても活用できる。

② 現任教育方法を検討する上での資料となる

今後、業務の中で新任保健師への現任教育のあり方を考える際、これらの到達目標に向かって、指導保健師としてどのような働きかけが必要であるか、新任保健師にどのような業務を担当してもらうと良いのかを、指導保健師とともに検討する上での資料となる。

③ 保健師活動を具体的に検討する機会

日常の保健活動の議論が具体的にできるよ

うになった。

3) 本学教員がかかわったことの意義

①看護実践の改善:看護実践の改善にはまだ至っていないが、改善につながる意義として次のように考える。本研究は、新任保健師研修会の実施も含めたものである。教員が新任保健師研修会の指導者として入ることで、看護の基本的考え方を押さえた指導ができた。新任保健師は本学教員からの助言を元に、看護の基本に立ち返り、より良い看護を実践していくことにつながる。

②大学教育の充実:大学教育の中ではまだ生かされていないが、新任期の実践能力を明らかにすることで、基盤となる基礎教育修了時の実践能力としては何が必要なのかを検討することができる。そして、大学教育の内容を見直すことができる。

③看護職者の生涯学習支援:基礎教育の状況を把握している教員が、基礎教育での到達度を元にし、さらに新任保健師の実態も研修会で把握しながら検討できたので、現状に即した新任期の到達目標を考えることができた。今後、これらの到達目標を参考に、新任保健師が各自の看護実践を振り返り、自己の実践を改善していくことにつながる。新任保健師を指導する立場の保健師にとっても、到達目標が示されることにより、何を指導したら良いのかが分かり、指導者としての役割が発揮できる。

IV. 報告と討論の会

検討した到達目標を「到達目標(案)」として示し、参加者より意見や感想を出してもらった。
・新任保健師が良く実践できていると思った。到達目標の設定として、全体的に高い目標のような気がする。

・「健康危機管理」のところは、到達目標として難しいのではないかなと思う。新任期であれば、「担当事業の中で健康危機について考える」や「誰に何を報告すれば良いのかが分かる」「健康危機発生時の対策は、チームの中でどのように考えているのかを知る」等が適切ではないか。

・担当業務によって体験できることとできないことがあるので、考慮すること必要。

・「施策化」「地区活動の展開」のところを振り返ると、自分たちも地区把握、地域の健康課題の分析が抜けたまま事業展開していることに気付かされた。

・「信頼関係の形成」について、新任期は対象者に合わせてコミュニケーションをとることも難しい場合がある。「対象者に合ったコミュニケーション方法を検討することができる」ことも到達

目標として必要である。

・自己研鑽の項目はあるが、「働くということ」等、社会人としての倫理、看護職としての倫理等にかかわる項目も必要であると思う。

V. 今後の課題

今回検討した到達目標は、現状ではまだ（案）の段階であるので、報告と討論の会においていただいたご意見やご感想もふまえ、さらに検討して

いく必要がある。特に、「倫理に関すること」は、保健師の実践能力の項目にも含めていなかったが、共同研究者間でも実践能力としても必要なことであると検討していた内容でもある。

今後、到達目標としてより具体的な内容にすること、到達目標に達成するための現場での現任教のあり方を検討していきたい。

表1. 保健師の実践能力調査項目

分類	実践能力	中項目
行政における看護実践	所属組織と活動の成り立ちの理解	組織の成り立ちと意思決定過程の理解
		施策と事業の位置づけ・成り立ちの理解
		行政の役割の理解
	施策化	地区診断に基づくニーズ把握と施策化・事業化
		基本計画に位置づく施策化
		サービス基盤の整備を視野に入れた保健医療福祉計画策定への参画 ニーズを説明し、予算化する
	地域のヘルスケア体制整備	現状のヘルスケア体制のアセスメント
		今ある資源が有効に機能するようにする
		不足している資源をつくりだす 資源の有機的なつながりをつくる
	健康危機管理	発生時の活動組織を理解する
		発生時の住民ニーズに基づき活動する
		健康危機に備えた平時の活動
看護過程の展開	地区活動の展開	地区のアセスメント（地区診断）
		地区活動の計画作成
		地区活動の評価・改善
	保健福祉事業の展開	住民のニーズと事業の目的の明確化
		住民ニーズと地域特性に合わせた方法を計画する
		目的を理解しながら実施する
		保健事業を評価し、改善する
	個人・家族への援助	信頼関係形成
		個人・家族のアセスメント
		支援計画作成
		実施した援助を評価し、支援計画を修正する
		記録を作成する
	他機関・他職種との連携・協働	対象者の個別ニーズの充足のための連携・協働
		集団・地域のニーズ充足のための連携・協働
		組織同士の連携・協働を意図した行動
		チームの一員としての行動
	住民との協働	対象者の個別ニーズを充足するための住民との連携・協働
		集団や地域のニーズを充足するための住民との連携・協働
健康生活を守る住民の主体的な活動を支援する		
共通の援助ニーズをもつ人たちの組織づくり 推進員など保健師の協力者・理解者の育成・支援		
所属機関の保健師との連携・協働	同じ部署にいる保健師チームの一員として行動する	
	異なる部署にいる保健師と連携・協働する	
自らの高めめる専門性	実践の中で研鑽する能力	看護実践を重ねる過程で専門職としての自らの能力を高める
		看護実践上の課題の解決に取り組む

表2. 新任保健師の実践経験内容と到達目標(案)の検討【行政における看護実践】

実践能力の項目	4ヶ月時点到達目標(案)	11ヶ月時点到達目標(案)
所属組織と活動の成り立ちの理解	<ol style="list-style-type: none"> 1)所属する組織の成り立ちを理解する。 2)当該行政組織(県、市町村)で実施する様々な事業を知る。特に保健事業に関しては、根拠となる法律、予算について理解する。 3)起案作成の手順を理解し、一般業務(予防接種や各種健診など)について、起案作成を試みる。 4)行政の役割について検討する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1)行政の役割、行政における看護職の役割について検討を深める。 2)行政施策の中での保健事業の意味や意義を考え、評価を試みる。
施策化	<ol style="list-style-type: none"> 1)所属する市町村や担当地区に関する情報、資料、データ等を集め、地域の現状を知る。 2)保健計画等を読み、現状の保健福祉事業との関連を考える。 3)地域の特徴を説明できる。 4)地域の健康問題が、どのようなところにありそうかを感じる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1)集めた資料などから、地域のニーズを読み取り、さらに必要な情報やデータを集め、地域のニーズを明らかにする。 2)個別事例への関わりから得られたニーズから、地域全体へのニーズにつなげて考える。 3)地域のニーズを他者に説明できる資料を作成する。 4)ニーズに即した予算作成を試みる。
地域のヘルスケア体制整備	<ol style="list-style-type: none"> 1)自治体、管轄地域、担当地区等のヘルスケアに関わる資源の現状を知る。 2)健康危機発生時にどのように行動すべきか考えてみる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1)現状のヘルスケア体制において、資源が有効に機能しているかを調べ、現状を把握する。 2)現状のヘルスケア体制において、不足している資源はどのようなものか、地域のニーズと合わせて検討する。 3)現状の保健事業等を住民のニーズに即したものになるよう、改善に取り組む。 4)地域のニーズに即して、新たな保健事業の立ち上げや、自主グループ立ち上げの支援に取り組む。 5)地域の資源である機関や関係職種と連絡を取り合い、意見交換をし、つながりを作る。
健康危機管理	<ol style="list-style-type: none"> 1)マニュアル等を読み、健康危機発生時の活動体制について理解する。 2)健康危機発生時にどのように行動すべきか考えてみる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1)健康危機発生時の活動体制について理解する。 2)健康危機発生時にどのように行動すべきか考えておく。 3)健康危機発生時に起こりうる問題を予測し、対策を立て、備える。

表3. 新任保健師の実践経験内容と到達目標(案)の検討【看護過程の展開】

実践能力の項目	4ヶ月時点到達目標(案)	11ヶ月時点到達目標(案)
地区活動の展開	<ol style="list-style-type: none"> 1)地域を見て回る(住民の保健・医療・福祉・介護サービスへのアクセスの観点、住民が主体的に健康を守る活動をする環境があるかの観点で) 2)地区診断のために必要な情報とその情報の収集方法を考える。 3)所属する市町村や担当地区に関する情報を既存資料や実践を通して集め、地区把握を行う。 	<ol style="list-style-type: none"> 1)所属する市町村や担当地区に関する情報を既存資料や実践を通して集め、総合的に地区把握を行い、資料を作成する。 2)地区把握を行う際には、保健福祉事業の利用のない人々も含めて、対象地区全体の状況を把握する。 3)地域の健康問題および、解決の方向性を自分なりに考える。 4)地域の健康問題を考える際には、保健福祉事業の利用のない人々等の潜在しがちな問題も含めて考える。 5)地域の健康問題や活動の方向性について、保健事業の計画、実施、評価を通して、同僚の保健師等と、検討する。

表3. 新任保健師の実践経験内容と到達目標(案)の検討【看護過程の展開】続き

実践能力の項目	4ヶ月時点到達目標(案)	11ヶ月時点到達目標(案)
保健福祉事業の展開	1)既存資料・前年度実績から事業にかかわる住民ニーズを確認し、事業目的を理解することができる。 2)計画された事業の目的を確認し、理解した上で事業に参加することができる。 3)参加した事業の方法とその方法を取っている理由を理解することができる。 4)参加した事業について改善点を検討する(見出す)ことができる。	1)事業を通して住民のニーズを捉える方法を自ら考えることができる。 2)事業を通して住民のニーズを捉え、事業目的を検討することができる。 3)担当事業の方法を住民のニーズに応じて随時改善することができる。 4)担当事業の方法を住民ニーズと地域特性をふまえて検討し、計画に反映させることができる。 5)各事業について、常に目的を意識して実施することができる。 6)担当事業について、1年間を振り返って評価し、次年度計画をたてることができる。
個人・家族への援助	1)対象者との信頼関係を形成するためのコミュニケーション方法について自ら考え実行することができる。 2)健診等の個別面接の場面において、限られた時間または1回のみ面接においても、援助に必要な情報を捉えることができる。 3)継続的に関わっている事例について、援助に必要な情報を捉えることができる。 4)必要な援助に関する判断を、指導者の助言を受けて判断できる。 5)個別の援助記録を作成できる。 6)情報収集ができたか、適切な判断ができたか、適切な援助ができたか、指導者の助言を受けて自己評価できる。 7)対象者の意思(希望・意欲・認識等)を捉える。 8)対象者に応じたサービスや資源の紹介ができる。	1)対象者との継続的な関わりの中で信頼関係を築いていくことができる。 2)個別支援事例を受け持ち、アセスメント・計画・評価を実施することができる。 3)援助に対する相手の反応を捉えながら、主体的な問題解決を促す援助を試み、検討することができる。 4)対象者をサービス利用につなげるための支援ができる。 5)対象者をサービス利用につなげ、サービス利用後の対象者の状況を確認できる。
他機関・他職種との連携・協働	1)他機関・他職種との会議・カンファレンスなどに参加する。 2)仕事を通じて、他機関・他職種の活動と役割を知り、視点・考えを学ぶ。 3)関係機関に連絡をとり、支援について一緒に考える。 4)組織・チームの一員として自分の立場・役割を自覚する。	1)他機関・他職種との会議・カンファレンス等に参加して、保健師としての判断をもって意見が言える。 2)関係機関と連携して、一緒に支援の検討・実施ができる。 3)対象のニーズを充たすために適切な他機関・他職種について助言を受けて判断し、協働に向けた行動が考えられる。 4)組織・チームの一員として、自分が果たすべき役割は何かを考えて、自ら行動できるようになる。
住民との協働	1)地域の援助者となれる人々(民生委員や自治会等の役員、ボランティアなど)と知り合いになる。 2)住民と連携・協働している活動について、保健師がどのような意図を持って連携・協働しているかを知る。 3)管轄地域での、住民の主体的な活動の状況を把握する。 4)住民の主体的な活動に参加して活動している住民と知り合いになる。 5)住民同士で支え合うことで解決すると思われるニーズがないか検討する。 6)食生活改善推進員や母子保健推進員等、既存の推進員の研修会に参加することなどにより、推進員の活動を知る。 7)出会った推進員と知り合いになる。	1)個別援助の際、民生委員や近隣住民との連携・協働の必要性を検討し、必要な場合はこれらの人に連絡をとって相談してみる。 2)捉えたニーズに応じた、住民との連携・協働の可能性を検討する。 3)自主グループなどの住民の主体的な活動を支援する方法を検討し試してみる。 4)住民同士で支え合うことで解決すると思われるニーズを捉え、そのニーズに対する住民の意見を聞きながら、組織づくりの必要性を判断する。 5)日常業務の中で、推進員など保健師の協力者・理解者となってくれそうな人とかかわる機会に、関係をつくりながらそれらの人の活動の現状や思いを把握する。 6)推進員など保健師の協力者・理解者となってくれそうな人々を育成・支援するための方法を検討する。

表3. 新任保健師の実践経験内容と到達目標(案)の検討【看護過程の展開】続き

実践能力の項目	4ヶ月時点到達目標(案)	11ヶ月時点到達目標(案)
所属機関の保健師との連携・協働	<ol style="list-style-type: none"> 1)参加する事業で役割を果たすために、不足している知識・技術がわかり、自己学習できる。 2)把握した対象の情報をもとに自らの判断・対応を報告することができる。 3)自分から質問したり、相談を持ちかけることができる。 4)担当外の業務にも関心を向け、所属機関の利用者に対する一次的対応ができる。 5)担当業務で連携が必要な他部署の保健師がわかり、お互いの役割が理解できる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1)所属部署に対する組織的理解が深まり、組織の中で自分がとるべき役割や行動が考えられる。 2)優先度を考えて相談・報告できる。 3)個別援助の内容を検討するため、他者に必要な情報を示して、相談・意見交換できる。 4)担当業務について、他部署の保健師と意見交換できる。

表4. 新任保健師の実践経験内容と到達目標(案)の検討【自らの専門性を高める】

実践能力の項目	4ヶ月時点到達目標(案)	11ヶ月時点到達目標(案)
実践の中で研鑽する能力	<ol style="list-style-type: none"> 1)自分の看護実践を振り返り、自分自身の課題を明確にする。 2)自分自身の課題解決に向けて努力する。 3)看護実践上の課題を見つける。 	<ol style="list-style-type: none"> 1)自己の課題解決に向け自主的に取り組むことができる。 2)看護実践上の課題に対し、対策を検討することができる。